に主人の苗字を己の姓とす、牛屋の名を恥ぢて、近來牛屋の千場衰微す、太郎兵衛、其家を買ひ取り、千場の名を止め、別號とす、熊本侯の金用達にして、帶刀の免許あり、

力車

〔萬葉集四相聞〕廣河女王歌、

戀草乎、力車二、七車、積而戀良苦、吾心柄、

〔西宮記臨時八〕臨時樂

康保三年十月七日、此日覽殿上侍臣奏樂、略中大鼓一面、鉦鼓一口、立同竹竹河架東、並加火焔、其前立桙、載力車、

〔榮花物語十五疑〕殿のおまへ、長藤原道中略、今は御こゝち例ざまになりはてさせ給ふめれば、御堂のことおぼしいそがせ給ふ、略中おほぢの方を見れば、力車に、えもいはぬおほきどもに綱をつけて、さけびのゝしりひきもていき、略下

〔榮花物語二十二鳥の舞〕としごろつくりみがゝせ給つる御ほとけ、みなみどのよりわたしたてまつらせ給、略中わたらせ給ふ程は、力車といふ物をふたつならべて、一佛おはしまさせ給、けふは其車のうへに、おほきなる蓮花の坐つくらせ給ひて、おはしまさせ給ふ、

〔狹衣四下〕御門、略中まだ夜はふかゝらんとおぼしつれど、あけにけるなるべし、道のほどに戀草つむべきれうにやと見ゆる、ちから車ども、あまたをしやりつゞけつゝ行ちがふ、

〔長秋記〕長承三年十月十五日庚寅、詣右府有仁源談云、去比仁和寺法印夢想、上皇羽鳥予大僧正汝鳥羽新造御堂、所居右雙居間、力車千万如飛入來、其聲如雷、於上皇予全命出、

〔新撰六帖二〕くるま

行なやみ力車もひゞくなりむそぢあまりのなげきつむとて

大八車

〔倭訓栞前編久八〕くるま　大八といふは、車輪に大八葉小八葉といふ事あるより、名となれる也、

〔白石紳書八〕同享保四年七月廿三日に、雀部重羽のいひしは、略中小石川の築地といふも、火後明暦三